

[平成23年 6月16日文教委員会-06月16日-01号]

◆芝田 委員 皆さん、おはようございます。公明党の芝田でございます。4年前に文教委員会で1年間いろいろ議論もさせていただきまして、4年ぶりにこの委員会で1年間、本当に皆様方とともに建設的な意見を交わせながら、しっかり堺市の教育が前に進むよう、議員としても頑張ってまいりたいと、そのように思っております。

きょうは3項目について質問させていただきます。順番としましては、まず、中学校の生徒指導とクラブ活動についてから御質問したいと思っております。

ちょうど4年前の文教委員会に入ったときは、中学校が地元の中学校で、私、五箇荘中学校のエリアに住んでおるんですが、いわゆる生徒が教室に入らない、そしてまた授業を妨害する。そしてまた服装も乱れて、私服で登校する。また自転車も学校の近くでとめて登校する。そしてまた、授業中も塀を乗り越えて、近くのスーパーとかで買い物したり万引きをしたりという、そういうことがあったり、そしてまた試験中にも見にもいかせていただきました。ちょうど数学の時間でしたけども、廊下で四、五人、テストを受けずに、廊下で座ってたむろしていると。そしてまた、教室の中を見れば、女子生徒が化粧をしているという、そういう光景を目の当たりにさせていただきました。

また、いろんな議員が五箇荘中学だけではなく、その当時のいわゆる荒れている学校に対して視察に行かれたり、また委員会、大綱質疑等でも質疑をしたわけでありましてけれども、最近また五箇荘中学はちょっと落ちついたかなというようなことでありましてけれども、当選後、いろいろ保護者の方から、また地域の方から、前からどうというよりも、最近またこういうことがある。大変危惧をしていると。また自分の子ども、また今まだ小学生の低学年やけど、入れたくないというような、本当に辛らつな意見をいただき、今回質問する経過になったわけでありまして。

それでは、最初に、現市内の中学校における生徒指導上の現況についてお聞かせください。

◎山本 生徒指導課長 問題行動調査によりますと、過去5年間、本市立中学校のいじめ、不登校につきまして、年々減少傾向にございます。暴力行為につきましては増加傾向にあります。増加傾向にあります暴力行為には、同じ生徒が繰り返す対教師暴力や、ささいなトラブルがグループ化した暴力に発展する生徒間暴力などがあり、原因として規範意識や人間関係を築く力の低下、感情のコントロールができない児童・生徒の増加とともに、生活環境等に起因するストレスなどが考えられます。以上でございます。

◆芝田 委員 いわゆる学校が荒れている中で、やはり暴力行為ももちろんある。そして、またそれが学校に行かなくなる、不登校になって、そして学校をかわるというようなことも、ここ最近私も耳にしたわけでありまして。そしてまた、三、四年前と比べまして、最近の五箇荘中学としか私も把握はしておりませんが、いわゆるマンションの前で多くたむろして、いわゆるその住人さん、特に小さいお子さんなんか、怖くて自分の家

にも入れない。そして、また幾つかの公園でも集まって、いわゆる公園を利用したい子どもさん、いろんな方にも迷惑をかけていると。この間聞いた話では、いわゆる幼稚園の送迎のバスの園児の乗りおりするときにちょっかいをするような、そういう学校を出て、そういう行動が、目に余る行動がふえているように思うわけですけども、この辺の認識は、市内の中学校を見られて、担当の課長さん、どのように把握されておりますか。

◎山本 生徒指導課長 学校内での問題行動等につきましては、先ほども申しましたように減少傾向にもあると、暴力行為は増加しておりますけども、校外におきましては、やはりそういう情報も幾つか入ってきておる状況でございます。以上でございます。

◆芝田 委員 そういふことが、保護者がすぐ学校に電話する。また教育委員会に電話するということですが、その後の行動、対応はどのようにされておりますか。

◎山本 生徒指導課長 学校や教育委員会に寄せられました情報につきましては、すぐさま教員に伝えられ、担当教員が現場に向かい、児童・生徒への指導あるいは関係機関への通報、連絡等対応しておるところでございます。以上でございます。

◆芝田 委員 市内の中学校で、いろんなところに程度の差はあれ、現在も進行しているのは事実でありますし、また今平穏な学校も、中学校も、そういうリーダー的な人がそこに入学すれば、そして、また転入すれば、そしてまたいろんな環境の変化によって、そういう因はどの中学校にもあるというふうに思うわけですけども、これまでいろいろ荒れた中で、教育委員会もいろいろ尽力されているのは、私も何回か直接お話し、意見も言わせていただきながら、確認もさせていただいているわけですけど、今現時点で、そういう学校の風紀の問題等であったときに、どのような対応されているか、簡潔にお答えいただきたいと思ひます。

◎山本 生徒指導課長 教育委員会といたしましては、昨年度、秩序と活気のある学校づくりガイドラインを作成し、校長のリーダーシップのもと、明確な指導方針を持った組織的な学校指導体制を構築するとともに、子ども一人一人の健全な人格の育成をめざす予防的・育成的な生徒指導を進めております。また、指導主事や学校危機管理アドバイザー、サポートスタッフで構成しましたスクールサポートチームの派遣や、スクールソーシャルワーカー等の活用を通じて、組織的な生徒指導体制の構築の支援を行い、荒れを未然に防ぐ取り組みを進めておるところでございます。以上でございます。

◆芝田 委員 今、答弁の中で、いわゆる組織的な生徒指導体制ということとされていると思うんですが、SATというそういう取り組みもされていたと思うんですが、今の答弁の中では、何かスクールサポートチームというような名称が出ておりますが、この辺の違いをお答えいただきたいと思ひます。

◎山本 生徒指導課長 SATといいますのは、スクールアシストチームというものの略でございます。専門家によります会議を開きまして、学校の現状理解、共通理解と、アドバイスをいただく会議でございます。それに対しまして、スクールサポートチームといいますのは、学校の荒れにつながる喫緊の課題に対しまして、早期の解決を図ることを

目的としております。チームのスタッフとしましては、学校とともに指導体制のあり方や対応について協議し、生徒指導体制の見直しを行うとともに、教員の指導をサポートしたり、子どもに対する働きかけを行ったりするなど、直接的・集中的な支援を行うのがスクールサポートチームでございます。以上でございます。

◆芝田 委員 SATはいわゆる何かあったときに、ぱっとそういった人たちが集まって現場に行くということで、このスクールサポートチームはそれを実際未然に、また実際起きている荒れの中で、またいろんないじめ等の学校の中の問題を、未然にちょっと前の段階でチームを組んで現場に入ると、そういう認識でよろしいのでしょうか。

◎山本 生徒指導課長 仰せのとおりでございます。以上です。

◆芝田 委員 五箇荘中学校ばかり言って申しわけないんですが、ちょうど2年前ですね、全体集会がありまして、5月と多分12月にあって、12月に別の議員から総括的な資料を出せということで、私もそのときも見させていただきまして、今回も見たわけですが、五箇荘中学の場合は、この3学期に教育委員会の生徒主事の方が行かれて、地元の連合長もかなり関心があり、また地域の太鼓の青年団も入って、そしてまた保護者、PTAも入って、見守りも、授業中巡回をしながらやって、それが3学期になって、その先生が入って、かなり改善したというような報告を受けておりますが、この辺について詳細をお答えいただきたいと思います。

◎山本 生徒指導課長 今、当該の中学校につきましては、1学期より教育委員会としてかかわって指導も助言等行ってまいりました。そして、3学期からは生徒指導担当の指導主事がずっと学校に入り込んで、教員へのアドバイス、そして生徒への直接指導あるいは校内体制の再構築への助言等行い、一定の効果を上げてきたというところでございます。以上でございます。

◆芝田 委員 今言われたように、一定の効果があって、ちょっと終息して、また今またそういうことになったわけですがけれども、いろいろ聞くところによりますと、いわゆるこれからですね、この間の大綱でもうちの会派の松本議員からもありましたように、やはり教員の年齢構成も若い教諭が多くて、ますますこういった可能性はふえてくるというふうに率直に客観的に見て、私はそう思います。また、当局の方もそのような認識はあるというふうに思います。そういった意味では、いろんな学校でいわゆる成功事例、そしてまた、しっかり改善したという、しっかりこれを検証していただいて、やはりスクールサポートチームを活用しながら進めていただきたいなというふうに思います。

大事なことは、先ほど課長さんがお答えいただきました、いわゆる声かけ、いわゆる学校の教頭、校長というのは管理職であるし、いわゆる教員さん、いろんな役職ありますが、あえて言わせていただくと、やはり五箇荘中学の場合は、ちょっとこの管理職と現場の先生等の方の、ちょっとこのチーム力が同じ方向に向いてたのかなというふうに思いますし、そこで、指導主事の先生が行って、若い先生、現場の先生に声をかけ、当たり前の、いわゆるしっかりチームで、学校で解決していこうというような、そういうことがあって、

改善の方向に向いたというふうに思います。まさに学校で起きた問題は、私は知らない、そしてまた、私はこの学校早よ出て、ほかのところ行きたい、落ちついたところで生徒と接したい、それは私は甘えだというふうに。一たん教諭という資格を取った以上、大変その現場でいろいろ対応していく中に、教員の最高の喜びもありますし、またそこで教員の資質も磨かれ、それがまたいろんなところで発揮されるのではないかなというふうに思います。

大変荒れて厳しい状況にいくというのは、人間としてはだれしもそれはうれしくはないですけれども、そういう、ただみんなが一生懸命、この学校の教諭、また教頭、校長、また教育委員会も力を入れて頑張っていたという、そういうのがやはりあれば、やっぱり目に見えないでも一步一步前に行っているという実感が、その現場の先生が感じれば、私は大きな成果につながると、また、そうなる信じておりますので、その辺もしっかり参考にしていただきたいなというふうに思っております。

あと1点、スクールソーシャルワーカーのお話ですけれども、これについて簡単に御説明したいと思います。

◎山本 生徒指導課長 スクールソーシャルワーカーについてお答えをいたします。

平成23年度につきましては、現在6名のスクールソーシャルワーカーを6校の拠点校となる小・中学校に配置しております。配置していない学校につきましては、学校からの要請に応じて派遣活動も行いながら、全市内の小・中学校の問題解決に当たっております。以上でございます。

◆芝田 委員 それでは、その活用状況について伺います。

◎山本 生徒指導課長 活動件数といたしましては、平成20年には113件の対応を行いました。平成21年度136件、平成22年度203件と、過去3年間でおよそ2倍に増加しております。活用したケースとしましては、不登校、いじめ、暴力行為、児童虐待等の家庭問題など、幅広く活用しております。学校にスクールソーシャルワーカーの有効性がだんだん認識してきておるというふうに考えております。以上でございます。

◆芝田 委員 それでは、スクールソーシャルワーカーさんの活用で、効果のあった事例があればお聞かせ願いたいと思います。

◎山本 生徒指導課長 具体の事例としましては、スクールソーシャルワーカーと関係機関を交えましたケース会議を開きまして、校内で暴力行為を繰り返す生徒の背景には、生活環境が大きく影響しているということをつかみました。この後、スクールソーシャルワーカーと保護者との面談をきっかけとして、学校全体で保護者の思いを受けとめることができるようになり、その結果、保護者と学校との関係が深まり、当該生徒も落ちつきを取り戻し、学級での暴力行為がなくなったというような報告もございます。今後とも事業の成果検証を行いつつ、より効果的な事業展開を図ってまいりたいと考えております。以上でございます。

◆芝田 委員 前段のほうでは、学校側のほうの意見を述べさせていただきましたけど

も、いわゆるスクールソーシャルワーカーというのは、いわゆる地域とまたそのいろいろ問題行動をする児童・生徒に対して、いわゆる家庭まで行ってというような形で、まさに私なんかも、やはり好きで授業妨害していない、好きでわあわあ言うてない、また好きでそういう小さな園児なんか子どもに暴力とか、つば吐いたりとか、そういうことはしてない。やはりいろいろ原因を探れば、家庭の問題、また育った環境があるということで、このスクールソーシャルワーカーさんは、やはり私は大事だと思いますし、増員がなっているわけですが、しっかりここも拡充をしていただきまして、しっかりやはりその学校に行き、やっぱり荒れていたら、本当に一生懸命勉強したい子どもがそういった影響を受けてしまって、ちゃんとした環境で勉強ができないという、そういう悪循環に陥りますので、スクールソーシャルワーカーの増員を求めて、この質問は終わらせていただきます。

次に、中学校のクラブ活動について御質問いたしますが、部活動の意義及び新教育課程における、この部活の位置づけについて伺いたいと思います。

◎山本 生徒指導課長 部活動は、子どもたちの自主・自立的な態度や、専門的技能、知識の育成、体力向上、健康増進及び個性の伸長にも効果的であり、規範意識や礼儀を身につけ、自尊感情や人を思いやる心を育てるなど、青少年の健全育成に貢献している活動であると認識しております。また、平成24年度から全面実施となります中学校の新学習指導要領におきましては、初めて学校教育の一環として位置づけられております。以上でございます。

◆芝田 委員 部活動で、私も中学校時代は野球部でしたけど、今の課長さんと一緒にクラブ活動をした仲でありますけれども、やはりクラブで学ぶこと、また上下関係というか、先輩に、いわゆる昔でしたから、いろいろバツで叩かれたりとか、いろいろありましたけれども、今の時代そういうことはなかなか難しいかもわからない。ただ、クラブで学ぶことというのは、いろんな意味で限りなく大きいというふうに思いますし、それがこの来年度の中学校の新学習指導要領に載るということでありますけれども、これはやはりなぜ載ったかという、その辺のことをちょっと確認したいと思いますが、その辺伺い願えますか。

◎山本 生徒指導課長 先ほども部活動の意義についてお話をさせていただきましたけれども、堺市内では43全部の中学校で部活動が実施され、約8割の生徒が活動しております。その中で、教育的効果も大変高いということで位置づけられたと認識しております。以上でございます。

◆芝田 委員 位置づけが遅いなというふうな、これは正直なことであります。

それで、いわゆる今少子化で、また自分のやりたいクラブ活動が、来年中学校行ったら、このクラブ活動をここの地元でやろうと思ったら、先生が異動でできなかったりとか、また年度途中というか、学年途中で余儀なくクラブができなくなるような状況となる、いわゆる顧問の先生がそこにいないと、教える先生がいないということがありますが、堺市内の部活動の現状についてお答え願いたいと思います。

◎山本 生徒指導課長 現在43中学校すべてにおいて運動部及び文化部の活動が行われております。平成22年度の部活動数につきましては、運動部469部、文化部210部で、入部率は運動部で62.7%、文化部で17.5%となっております。以上でございます。

◆芝田 委員 今、入部率は運動部で62.7%、文化部が17.5%、何か運動部のほうがかかなり高いわけですけど、ただ、この数字にはいわゆる本来このクラブがあれば、例えば武道が、剣道があればやりたかった、またバスケットがあればやりたかった、だけどないから別のところのクラブにする、また、ないからもうクラブ活動しなくて、いわゆる活動しないということがある、その辺の詳細な中身というのは押さえられていますか。

◎山本 生徒指導課長 具体的な子どもたちの入りたいクラブがある、ないについては、つかんではおりません。以上でございます。

◆芝田 委員 しっかりつかんでいただいて、やはり人事異動のときも、やはりなかなかそれはパーフェクトというのは難しいと思いますが、そういうことも事前にアンケートをとりながら、しっかりまた声も聞きながら、クラブ活動の本当に子どもさんから見て入りたいクラブ活動が1つでもふえていく、またそのパイがふえるような形で御努力をお願いをしたいというふうに思います。

次に、学校の安全管理について御質問いたします。

ちょうど大変これも10年前の池田小学校の問題がありましたけども、これを受けてちょうど10年の式典等もあったわけですけども、堺市において、この池田小学校の教訓を生かすということで、何か取り入れられていることがありましたら、お聞かせ願いたいと思います。

◎山本 生徒指導課長 学校の安全管理につきましては、さまざまな取り組みを行っておるところなんですけども、インターホンや監視カメラなどの施設面での整備、さすまた、警杖の配備、全小学校と支援学校への安全管理員の配置を行うとともに、学校安全指導員による不審者対応訓練を実施しております。また、登下校時の防犯対策につきましては、児童に防犯ブザーを貸与することや、PTAや地域の方の協力により、子どもの安全見守り隊の活動などの安全対策を行っております。さらに、情報提供におきましては、堺市安全安心メールの配信を行うことによって、保護者や地域の方に安全・安心を提供しております。以上でございます。

◆芝田 委員 新聞等では池田小学校の10年を機に、いわゆる危機管理というか、いわゆる不審者が校内に来たときに、どのように逃げるかという、また先ほどもありましたように、防災等の何か入ったそういったソフトができた、いわゆるマニュアルができたというふうに聞いておりますが、その辺当局は御認識はございますか。

◎山本 生徒指導課長 新聞報道等で見させていただいております。以上でございます。

◆芝田 委員 私も詳細はあれなので、しっかりまたそういうことも取り入れまして、お願いしたいなと思います。というのは、この間の新聞で、大阪府下、政令市除くんです

けども、警備員さんが減らすというような状況もあって、やはりいろんな不審者が今、私も登録しているんですが、安全安心メールについても本当にしょっちゅうというかあれですけども、送られてくるということもあれば、ということは、そういうふうには現状がそうなんだろうというふうな認識をさせていただいております。

この安全安心メールですけども、最近何か中身を見ても、同じような、いわゆる下半身露出の人が来て、慌てて子どもさんが逃げて、家に言ったとか、そういうことがあるわけですけども、何かこれが一方通行で、何かこれが実際どのように活用されているのか、いろいろ質問、きのう打ち合わせしたときに、同時に警察にも送られるという所管にですね、ということなんです、何かこの報告みたいな、何かそういうお考えはないんでしょうか。

◎山本 生徒指導課長 全ての情報、1年間で情報集約をいたしまして、教育委員会より年度初めですけども、昨年度の各学校園における不審者情報を報告しております。内容につきましては、月別件数、被害形態、時間帯、警察管内別、地図による不審者発生場所等をお知らせして、さらなる注意喚起をしておるところでございます。以上です。

◆芝田 委員 それは1年ごとに、どこに、警察に。学校にですか。

◎山本 生徒指導課長 各学校に配布しております。以上でございます。

◆芝田 委員 やはり登録している方にも、まあ言うたら、下半身露出の人が何かしょっちゅういるけど、捕まったのかなとか、またそういったことを、やはりちょっと報告、学期ごとに、1学期、2学期、3学期ありますので、何か文字数の制限があるんでしょうけど、ただ、ちょっとやっぱり、それがやっぱりまたかというふうになってしまえば、未然な事故がそこでとまって、防ぐことがとまってしまうというような危惧もあると思いますので、その辺、しっかり報告するような体制をとっていただきたいというふうに思います。

最後に、学力向上と、放課後学習について御質問したいというふうに思います。

竹山市長の公約、肝いりでスタートをしましたマイスタディ事業ですけれども、かなり評判がよくて、今回また拡充というようなことでありますが、この堺マイスタディ事業の目的と概要についてお伺いいたします。

◎柳井 教務課長 堺マイスタディ事業についてでございますけれども、放課後や長期休業中などを活用しまして、子どもの学びの状況に応じたきめ細かな学習指導を通して、一人一人の学力や学習意欲の向上を図るといったことを目的としております。今年度は、小学校31校、中学校14校で実施をいたしますが、概要についてでございますけれども、大学生や退職教員、地域人材などを指導スタッフといたしまして、小学校では3年生から6年生まで、国語、算数、中学校では全学年、国語、数学、英語を中心に、各学年年間35回程度学習に取り組むという、そういう取り組みでございます。以上でございます。

◆芝田 委員 昨年の文教委員会でもこういう議論があって、いわゆる効果検証ということで、いろいろあったと思いますが、昨年度の現時点での検証はどのようにされておりますか。

◎柳井 教務課長 昨年度の効果検証についてでございますけれども、効果検証の一助とするために、アンケート調査を実施したり、またモデル校から聞き取りをしたりして、効果検証いたしております。内容でございますけれども、マイスタディでの学習がよくわかると感じている子どもが多く、学習の内容の理解に効果があらわれておるといふ成果がございます。また宿題を忘れることが少なくなったとか、復習をする子どもがふえたなどの学校からの報告がございまして、学習意欲の向上、また学習習慣の定着が見られ、成果があらわれているととらえております。保護者のほうからは、学習意欲が向上し、また来年も参加させたいという声も多く、保護者のニーズの高さも教育委員会のほうでは把握しておる状況でございます。以上でございます。

◆芝田 委員 それでは、今年度の実施校の選定状況と取り組み内容、予算額についても伺いたします。

◎柳井 教務課長 今年度の選定状況でございますけれども、応募があった学校につきまして、各学校のこれまでの取り組み状況でございます実施計画書をもとに、昨年度のモデル校を含めて、14校を含めて45校を選定いたしました。それは教育委員会におきまして、選定委員会を開催し、選定をしたところでございます。今年度は取り組み内容としまして、より学力向上に向けた効果的な取り組みを推進するというようなことで、子どもの状況やニーズに応じまして、実施学年、また実施回数、実施教科等につきまして、学校の実情に応じて柔軟に実施できるような見直しを行い、各学校では学力向上の方針に基づいて実施をするという状況でございます。本事業の今年度の予算総額につきましては、5,119万2,000円でございます。以上でございます。

◆芝田 委員 このマイスタディ事業は、昨年6月からスタートいたしまして、我が会派のほうもいわゆるいきなり手を挙げというか、どこの学校にするのではなく、やはり負担があるのではないかと、それをするとき、同じ教室を使いますので、いわゆる負担があるのではないかと、そのようなことも勘案しながら、丁寧にとということで、各区小学校1校、そしてまた中学校1校ということで、7校、7校でスタートをして、昨年度のアンケート調査等でもかなりよい内容があったと、やってよかったというような声があったということで、今回拡充になっているわけですが、こういう先ほどちょっと危惧しておりました、いわゆる学校の負担とか、またその受け入れている方の子どもさんの負担はないかどうか、その辺をお聞かせ願いたいと思います。

◎柳井 教務課長 負担という点につきましては、昨年度のモデル校では、学校側で参加についての出席を確認するということと、また欠席者への連絡をするといったことが、学校としては負担であるというような、そういう声を聞いております。また、これは課題でございますけれども、子どもの実態やニーズに応じた教材の用意に時間がかかるということ、またスタッフの確保というあたりも課題であるというふうにはとらえております。スタッフの確保につきましては、現在、45校それぞれに学校側も地域人材の掘り起こしでありますとか、そういうことで確保に努めている状況であり、教育委員会のほうも、幅

広くいろんな人材をいろいろ確保するように、今現在努めているところでございます。以上でございます。

◆芝田 委員 学校側の負担という、その言われた、出欠の確認をする、そしてまた欠席者への連絡をしているということが負担であるという、それは一部の学校という理解でよろしいですか。それは、どうでしょうか、そんなに負担になるのか、その辺がちょっと私もわかりませんが、その辺は現場は実際これをもう少し聞いていけば、どのような答えがありましたでしょうか。

◎柳井 教務課長 今回の御質問でございますけれども、実際、一部の学校でこういったような負担の声がかかれておるような状況でございます。以上でございます。

◆芝田 委員 一部というか、それは本当に負担ですけども大丈夫やというのと、いや、もうこれがというのか、ちょっとその辺が私もわからないんで、お聞かせ願いたいと。

◎柳井 教務課長 もちろん、この負担という意味合いにつきましては、このマイスタディの学習をやはり子どもたち参加する子どもたちにはしっかり参加をさせようという学校の意欲というようなものもあらわれでございまして、そのあたりの負担につきましては、学校のほうでこれからまた解決していく課題であるというふうにはとらえております。以上でございます。

◆芝田 委員 わかりました。この後、議論進める中で、その辺も確認していきたいと思いますが、いわゆるこのマイスタディに参加している子どもさんが、実際、授業でどのように変わったのかと、そのようなことを私も今思うわけですけど、その辺はどうなんでしょうか。

◎柳井 教務課長 昨年度のモデル校からの聞き取りによりまして、このマイスタディの学習でつまずきの解消が自信につながった、ふだんの授業でわからないことについて質問できるという、そういったような効果が生まれてまして、授業で意欲的な様子が見受けられる子どもがふえていったという、そういう状況も聞いております。一方、アンケート調査の結果では、授業がよくわかるようになったと回答している子どもは、小学校が約6割、中学校が47%、約5割でありまして、授業内容の理解に関しまして、一定の成果があったものというふうにも思っております。さらに授業を理解できる割合を高めていくという、そういう必要性があるというふうにも考えております。以上でございます。

◆芝田 委員 ここが大事なところで、いわゆる授業がよくわかるようになったとか、また前向きな答えがあるということで、拡充に進んだのかなというふうにも思いますし、そういうことがあれば、学校側のその出欠とか、また欠席者への連絡も、子どもが、生徒がですね、ちょっと学習意欲が前向きになったというのであれば、多分受け入れていただけかなと、これは推測の域でありますけどもね。ただ、現場の声をしっかり教育委員会もお聞きになって、またバックアップのほうもよろしく願いをいたします。

本来、この授業が一番大事でありますし、わかる授業、そして、またICTの電子黒板等も活用して、いろいろ今新たな分野で教育も変わろうとしております。そういった意味

で、やはり学力向上という中で、この放課後事業のマイスタディが進んでいるわけですが、今の状況でいけば、前向きに私はとらえさせていただいておりますけども、この学力向上とこのマイスタディ事業の関連性についてと、そして本来の授業のフィードバックについて、どのようにお考えかお聞かせいただきたいと思っております。

◎柳井 教務課長 学力向上と本事業の関連についてでございますが、学力を向上させるためには、何より授業が基本であり、その改善が重要なことであるというふうに考えております。その授業の中で、学習習慣や学習意欲に課題が見られる子どもの支援につきまして、この事業が有効であるというふうに思っております。

この昨年度の聞き取りからも参加している子どもが、問題が解けるようになってきたら勉強がおもしろくなってきた、わからないときにはすぐに質問ができて、自分のペースで勉強ができるようになった、またスタッフのかかわりによって、自己肯定感が高まって、学習意欲が著しく向上した、これは中学生の子どもですけれども、そういったような意見が寄せられていることから、この学習意欲の向上や学習習慣の定着が図られているというふうに思っております。

また、テストというところにも成果があらわれた例といたしましては、小学校におきましては、1学期より2学期の算数のテストの平均点が上がるといった例、また単元テストにおける効果があらわれている例、中学校におきましては、1学期よりも2学期末の定期テストで点数が上がった例などが挙げられておりまして、本事業は学力向上の一助として有効な取り組みというふうに考えております。

今年度の効果検証につきましては、既に45校には説明をいたしておりますけれども、子どもたちの理解度、また学習意欲の向上、また参加者や保護者へのアンケート調査、またそういうテスト等の推移について、1年間かけて効果検証を学校、また教育委員会ともども行っていくと、そんなふうに考えております。以上でございます。

◆芝田 委員 学力向上調査、特に全国学力調査等でも大阪は全国でも低い、その中でも堺は低いという中で、4年前の文教委員会でもそういった議論もあったと私も記憶させていただいております。このマイスタディ事業が、今のお話で議論をさせていただけば、1つは一定の効果は認めていかなければならないし、それは喜ばしいことでもありますね。ただ、学力向上という大きな観点からもしっかり当局は力を入れていただかなければならないというふうに思います。昼一番から、竹山市長にこの辺のこともお聞きしますの、一たんここで議論は終結させていただきませう。大変ありがとうございました。